

通信 「ちえふる」 3月号

幸せと健やかな成長を願う雛飾り ～雛人形を支える名脇役？～

日本で古来より親しまれてきた雛人形。そのルーツは諸説ありますが、一説では、紙で作られた「人形（ひとがた）」だと言われています。紙で作られた人形や形代（かたしろ）を使って邪気を祓うようになったということです。今回は、そんな雛人形を支える品々にスポットを当ててみました。

【桜と橘】

原型は京都御所になります。御殿に向かって、右に桜、左に橘です。桜は、古来から魔除け、邪気払いの力があると考えられてきました。橘は、高さ2～4mの常緑樹です。落葉せず、初夏に白い花が咲き、冬に実がつきます。黄金色の実がつくことから不老長寿の木とされ、ありがたい木とあがめられてきました。

【金屏風】

もともと屏風は中国のもので、日本では室町時代に金屏風が存在しました。その後、江戸時代に儀式、礼拝、節句といったおめでたい席で金屏風が使われるようになりました。雛人形飾りの背面に置かれているのは、これからの人生を明るく照らしてくれるためという意味合いもあります。



【菱餅】

菱形の形は菱の水面に浮かんだ葉の形を映していると言われ、尖った形に厄除けや魔除けの意味があるとも言われています。緑・赤・白の3色は、健康・魔除け・清浄を表し、白い雪から緑の芽が出て咲くという様子を表現したといわれます。

【七段飾り】

古来から七は縁起の良い数字とされています。現在の雛人形の段数は、三段飾り、五段飾り、七段飾りの3種類が多く、人形の数も15人と、全て奇数になっています。古代中国で生まれた陰陽道では、奇数を「陽の数」としているためです。

【緋毛氈】

下に敷いている赤い布は緋毛氈（ひもうせん）といいます。緋色（赤色）は魔除けの色を表します。子供に災いが近づかず、健やかに育つようにという願いを込めています。

※ 写真は、天童市観光情報センターに展示されている雛飾りです。当室利用の折などに、是非ご覧ください。（天童雛飾り3月20日まで）

今月の休館日

3月17日（月）



天童市学習支援室
「リバテラスちえふる」
Tel (023) 651-6205